

# 法 学

## 教員名

教養・医学教育大講座 法学

教授 神谷 隆一

## I 一般学習目標

法を抽象的な原理として捉えるのではなく、具体的な問題に即して捉えて実社会との関連の中で理解することにより、法の基本概念・基本理念を修得し、法的思考力、多様な価値観を理解する能力を身に着ける。

## II 個別学習目標

1. 法の役割を説明することができる。
2. 法の基本概念を説明することができる。
3. 基本的人権について基本的理念を説明することができる。
4. 新しい人権、自己決定権とインフォームドコンセント・インフォームドアセントについて基本的理念を説明することができる。
5. 国の統治機構について基本的理念を説明することができる。
6. 刑法の基本理念を説明することができる。
7. 医師の守秘義務、チーム医療と信頼の原則について説明することができる。医療過誤と刑事責任をめぐる裁判例の基本的な考え方を説明することができる。
8. 財産法の基本理念を説明することができる。
9. 医療過誤と民事責任をめぐる裁判例の基本的な考え方を説明することができる。
10. 家族法の基本理念を説明することができる。
11. 労働法の基本理念を説明することができる。
12. 多様な価値観を理解することができる。社会人として必要な法的思考をすることができる。(各講義項目共通)

## III 教育内容

### 講義項目

1. 法学を学ぶ意義（幾つかの裁判例に即して考えてみる）①・②
2. 法とは何か、法源、法の分類、法の解釈
3. 国家と法（基本的人権総論）
4. 国家と法（新しい人権、自己決定権とインフォームドコンセント・インフォームドアセントなど）
5. 国家と法（統治機構）

6. 犯罪と法（総論）
7. 犯罪と法（医師の守秘義務、チーム医療と信頼の原則、医療過誤と刑事責任をめぐる裁判例など）
8. 財産と法（総論）
9. 財産と法（医療過誤と民事責任をめぐる裁判例）①・②
10. 家族法（親族、相続）①・②
11. 労働と法

#### IV 学習および教育方法

講義形式で行う。

なお、毎回の授業に先立ち、六法で条文を確認しながら授業範囲の教科書及び配布資料を読んで予習をしておくこと。また、授業終了後に、授業で学んだことを踏まえ再度授業範囲の教科書及び配布資料を読み、関連事項を確認するなどして復習を行うこと。

#### V 評価の方法

期末試験（筆答）100%により評価する。ただし、授業受講直後に提出する課題解答の提出割合（授業を受講せずに課題解答のみ提出することは認めない）が3分の2に満たない場合は、期末試験の受験を原則として認めない。

#### VI 教科書・参考書

教科書：池田真朗編『プレステップ法学〈第4版〉』（弘文堂）

池田真朗他編集代表『法学六法'22』（信山社）

参考書：稲正樹・松尾剛行他『法学入門』（北樹出版）

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣）

その他、講義中に適宜紹介し、必要に応じ参考資料を配布する。

※講義には必ず『プレステップ法学〈第4版〉』と『法学六法'22』を持参すること（開講時の最新版を使用する）。

## 講義日程表(法学)

No.	月日	曜日	時限	項 目	担当教室	担当
1	R4.4.14	(木)	2	法学を学ぶ意義(幾つかの裁判例に即して考えてみる)①	法学教室	神谷
2	R4.4.21	(木)	2	法学を学ぶ意義(幾つかの裁判例に即して考えてみる)②	法学教室	神谷
3	R4.4.28	(木)	2	法とは何か、法源、法の分類、法の解釈	法学教室	神谷
4	R4.5.12	(木)	2	国家と法(基本的人権総論)	法学教室	神谷
5	R4.5.19	(木)	2	国家と法(新しい人権、自己決定権とインフォームドコンセント・インフォームドアセントなど)	法学教室	神谷
6	R4.5.26	(木)	2	国家と法(統治機構)	法学教室	神谷
7	R4.6.2	(木)	2	犯罪と法(総論)	法学教室	神谷
8	R4.6.9	(木)	2	犯罪と法(医師の守秘義務、チーム医療と信頼の原則、医療過誤と刑事責任をめぐる裁判例など)	法学教室	神谷
9	R4.6.16	(木)	2	財産と法(総論)	法学教室	神谷
10	R4.6.23	(木)	2	財産と法(医療過誤と民事責任をめぐる裁判例)①	法学教室	神谷
11	R4.6.30	(木)	2	財産と法(医療過誤と民事責任をめぐる裁判例)②	法学教室	神谷
12	R4.7.7	(木)	2	家族法(親族、相続)①	法学教室	神谷
13	R4.8.25	(木)	2	家族法(親族、相続)②	法学教室	神谷
14	R4.9.1	(木)	2	労働と法	法学教室	神谷